

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202114		
法人名	有限会社 アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム清水興津の家 1階 (1階、2階 合同)		
所在地	静岡県静岡市清水区八木間町1846		
自己評価作成日	平成26年7月31日	評価結果市町村受理日	平成26年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202114-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成26年 9月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

興津川沿いにあり、周辺には山、畑もあり四季の変化による様々な景色が描き出される自然豊かな場所にあります。近くには遊歩道、公園もあり自然に親しみながら散歩をしています。歌、フラダンス等のボランティアの訪問を積極的に受け入れており、利用者様に喜ばれています。ジグソーパズルの得意な利用者さんと職員がいつしょになってパズルを完成させたことの喜びを分かち合い、利用者さんと職員との絆を大切にしています。食事は、食材配達業者の福祉用を採用し、栄養面・見栄えの良い調理を職員が作っています。利用者さんには大変喜ばれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周りは川、山等の自然環境に恵まれ、幹線道路から離れているため騒音もなく、四季を満喫できる。また、少し歩けば店もあり便利である。職員は入居者が自然体で、理念通りその人らしく生活できるよう、職員のペースでなく入居者本意の、入居者の視線を大切にし残存能力を活かす介護をしている。訪問した日も、食後に入居者が趣味のパズルを職員の助けを得て楽しんでた。その姿を周りの入居者も笑顔で見ていた。食事も見守りながらできるだけ本人のペースで自分で食べてもらえるように支援している。館長は職員の話に耳を傾け自主性を重んじ、職員が働きやすい環境作りに努めている。地域との協力体制に意欲的な考えを持っている。また、本部での研修が充実していて職員を育てる意欲が感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念「その人らしくありのままに」掲げ理念を共有し又、実践にむけて行動し日々努力し取り組んでいます。	理念は目につくように大きな字で玄関や事務所に掲げ、意識して実践している。職員と入居者が家族のような雰囲気になるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し運動会・盆踊り・防災訓練などの行事に参加させてもらっています。	自治会に加入していて、回覧板で敬老会など行事案内があると入居者と参加する。職員が清掃に出て近隣の人に挨拶している。ボランティアを受け入れ、フラダンスは入居者が喜んでいる。来年度から小中学生の体験学習を受け入れる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の方々に何か貢献できるサービスがないか職員で話しあっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回実施しています 自治会長・民生員・地域包括。市職員の方々に参加して頂き、情報・意見交換やアドバイスを頂いています。	年間予定を組み、奇数月に行っている。会議は入居者のいる所で行うようにし話を聞くこともある。次回から家族が参加してくれるように再度お願いをし実現の予定である。包括支援センターの職員から活発な意見がでる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者を積極的に受け入れ介護保険証の更新まで、役所に足を運びながら持ち良い関係を築いています。	生活保護者を受け入れているので生活支援課とは密に連携をとっている。行政の研修情報はメールで送られてくるので、参加することもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ施錠し、居室の鍵は利用者の意思に任せ職員が鍵をすることありません	本部研修が効率的に行われており、「身体拘束」については初任者研修で受講する。玄関は開放している。居室の鍵を掛ける人がいるが安全確認のため許可を得て寝てから開錠している。スピーチロックは管理者、リーダー、職員同士で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の中で本部から提供される資料(AA課程)を元に勉強会を開き、話し合いをしています。		

静岡県(グループホーム 清水興津の家 1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現利用者さん1名成年後見制度を活用しています。今後も必要性があれば活用できるよう支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居規約時、契約書・重要事項説明書について具体的に分かりやすく説明し利用者さんやご家族の不安や疑問を理解・納得してもらっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族からの意見、不満、苦情等を聞いた場合は、直ちに管理者に報告し速やかに改善されるよう配慮しています。	家族の訪問の時に「遠慮しないでなんでも言ってください。」と声をかけると困っている事を相談してくれる。運営に関することがあればすぐに対処する。訪問時間は制限せずいつでも来てもらえるように支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員とのコミュニケーション中で、代表者は職員のため訪問よろず相談員など情報で職員の声を反映させています。	本部より新しい試みで職員に「よろず相談」の訪問が2回あった。会社は待遇・質・働く環境等向上を目指している。運営に関して職員は意見を出し、職員からの意見でスリッパを新しくしたり、浴室に椅子を購入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の増員、年2回の意見交換会(無料)、職員のための訪問よろず相談室の開設、役職増やすなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内(更なるレベルアップ集中研修)もとより社外研修の参加できる機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との意見交換や交流の場を設けるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様(酒が飲みたい、家に帰りたい、美味しい物が食べたい等など)多々ありそれに応える為にも家族の方にも協力して頂き職員も常に声掛けし自分の家にいる様な雰囲気を持っていくように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや心配ごと等をTELで連絡し又、面会の際に聞き思いの共有が出来るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の動機や既往症などをもとにサービス対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を一緒に共にすることを意識し表情や仕草、話す言葉に耳を傾け入居者様の気持ちにできるだけ寄り添えるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できるだけ面会に来て頂いたり、遠方で来られない場合本人と電話で話して頂きご家族の思いや心配事などを聞き思いの共有ができるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が遠方に住まわれたり又、高齢になり疎遠になってしまう人が多く会う事も出来ない状態ですが家族と連絡をとり面会に来て頂けるよう努めています。	遠方より姉妹や家族が訪れ、墓参りに出かけた際は連絡を取るなどしている。山梨より兄や甥が温泉へ外泊に連れて行ってくれる入居者には継続して出かけられるように支援している。入居者は面倒見の良い人が多いので家族のように暮らす雰囲気を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無口の方、耳が遠い方がいる為職員が常に声掛けし職員が入りコミュニケーションをとるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日常生活の様子・行事・受診対応などの様子をご家族に報告、安心して頂けるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんの事を知る事ことで、その人らしい暮らしや希望・意見を聞き入れて出来るかぎり、本人の意向に添えるように努めています。	会社独自のシートがあり、介護中に気づいたことはすぐに記入する。入居者はパズルをしたり、カラオケを歌ったり、ビデオを見たりしている。無口の人や耳の遠い人は表情で把握している。趣味の材料の提供等は入居者の意見を聞いて行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族などから話し聞き以前の暮らしがどのようなであったか、くわしく把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホーム内で、その人が出来そうな事を見つけみつけて、それを毎日の役割として行ってもらっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員個々が、気付いた利用者さんの様子を皆で話し合い、意見交換をして介護計画を作成しより良いケアを目指しています。	全職員が全入居者をみている。職員は館長の意向でカンファレンスで積極的に意見を出すように言われ行っている。協力医に意見を求めたり、前施設の担当者に意見を聞き作成することもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特に利用者さんの体調変化や小さな気付きなどを具体的に記録し、介護計画や対応に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営推進会議や職員会議などの情報を活用しています。		

静岡県(グループホーム 清水興津の家 1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者さん一人ひとりの性格や介護度などを理解した上で、サポートすることで、落ち着いた生活が送ることができる 歌のボランティア・フラダンス等に参加する事により楽しみのある生活が送ることが出来るよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の定期受診や体調の急変・日常生活で異変があった際にはすぐに連絡して指示を仰ぐようにしています。	訪問歯科が入っている。家族の協力があまり得られないため、職員が受診の付き添いをしている。家族とは電話や直接、情報交換をしている。受診後申し送りノートや個人ファイルに記入し、職員間で情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の利用者さんの健康状態やその他の情報を職員全員が把握して、受診時に医師・看護師に伝え指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は、病院とこまめに連絡を取り、面会時に介護師に今現在の状態を聞き、経過を見ていき、施設で協力できるものを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ホームとしてできる事とできない事をご家族に話し、ご家族ともう。終始連絡をとれる体制を作っています。又、今現在状態の説明をし話し合っています。	入居時、医療処置が必要になったら医療機関に移る等詳しく説明し同意書を得ている。会社でマニュアルや講習会を充実させ、終末期に向けての対応を検討している。最近、事業所では老衰の入居者をぎりぎりまで介護し、ターミナルの体験をしたので次に繋げたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故起こった際には事故報告書を作成し、同じ事故が起きないように職員同士で話し合っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、避難経路、火災通報装置、消火器の使い方の確認を行い、いざという時に備えています。又、地域の防災訓練にも参加しています。	地震と火事想定訓練を行っている。6月の訓練では夜間火事を想定し、歩ける人のみ外へ出た。2階は歩ける人がほとんどいないので地域の協力が必要である。消防署が立ち合った時に言われた物は準備している。地域の防災訓練には職員が参加予定である。備蓄は3日分ある。	短時間で避難できるような工夫、運営推進会議で地域住民の方を呼び掛ける等、協力が得られるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さん一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように声掛けや対応に配慮しています。	入居者とは自然体で接している。改まった言葉や丁寧語は過剰にならないように気をつけている。理念の「その人らしく ありのままに」に基づき、生きてきた過程を大切に対応するように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんの話しを良く聞き希望にそえるように、相談にものえるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にして散歩、食事の片付け、洗濯ものたたみ等自分らしいゆったりと過ごしていただけるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度、訪問理美容を利用し利用者さんの意思を大切にしその人にあったおしゃれが出来るように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材配達業者(メニューも提供)から提供される食材で、見栄えのよい色々な種類の料理を職員が作っています。片付け等は、利用者さんのできる範囲で手伝ってもらっています。	1階は福祉業者から食材を取っている。行事食や希望食もある。2階は職員が買い物をして作っている。栄養面はチェックする。朝・夕は入居者と一緒のものを食べ、昼食は検食をしている。下膳は入居者が率先して行っている。家族から野菜の差し入れがある。おやつは本部に注文する。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材配達業者の福祉食材、調味も採用していますので栄養バランスはとれています。水分量は介護記録でチェックし、一人ひとりの状態に応じた対応をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で行える利用者さんには、声掛け、見守りで行い、介助が必要な利用者さんには介助して行い、口腔内の清潔を維持できるように支援しています。		

静岡県(グループホーム 清水興津の家 1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりのパターンを把握している。パットを使っている方はトイレ時パットの確認を行っています。排泄の訴えがない利用者さんには、職員が声掛けし誘導しています。	尿意を感じない人には排泄パターンで誘導している。パット使用者は夏には布パンツにし蒸れを防いでいる。リハビリパンツだった人やパット使用者で布パンツになった人がいる。夜のみオムツ使用者は2人いるが基本はトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をしっかりと行い、館内歩いたり、腹部マッサージなどを行っている。ヨーグルトや乳製品を出すようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴を実施していますが、体調の悪い利用者さんは、清拭を行っています。一人ひとりに入浴希望を聞き拒否時には無理に入浴しません。	広い浴室なので2人で入浴可能である。希望があれば毎日の入浴や同性介助にも対応できる。部屋が広いので冬は入浴前にしっかり暖めている。入浴剤や季節湯は使用していないが希望あれば対応する。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節ごとに室温の調節、布団・衣服の調節をし快適に入眠できるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が個々の薬管理表に目を通し把握するようにしている。分からない事は医師に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	いままで慣れ親しんだ生活をして頂けるように、利用者が出来る範囲で洗濯たたみや、食器拭きを手伝って頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者さんの希望や天気によっては外気浴や散歩に行くようにしています。また、ご家族の方と外出、外泊も行っていきます。	化粧品の買い物は近くの店へ歩いて行く。散歩しながらコーヒーを購入する人もいる。近くに公園や川があり、車の往来も少ないので安全である。皆で外出の計画を立てている。	

静岡県(グループホーム 清水興津の家 1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さんのお小遣いとして施設で管理しており、希望の物があれば職員と買い物に行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えがあれば、管理者からご家族に電話連絡し利用者さんと換わるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて色々な行事を行い、利用者さんと一緒に掲示ものを作成し、食堂・居室に飾り華やかになるようにしています。	温度計や湿度計を見ながら調節している。汚物は臭い消しをしてゴミ箱へ捨てる。玄関や窓の開閉で風通しを調整している。壁には皆で作った色鮮やかなちぎり絵やアニメ、切り絵や入居者の写真が掲げてあり、明るい雰囲気が出ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室になっており、好きな時間に居室で休めるようになっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんご家族と話し合い、本人が使い慣れた物を使用してもらっています。	カラオケセットやオーディオ、テレビ、自分用ベッド等を持参している。位牌に鐘、数珠でご主人の供養をしている人もいる。職員が健康管理し見守って晩酌をしている入居者がいる。居室の掃除は毎日入居者と職員がやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家事の手伝い、レクリエーションなど、できることは進んでやってもらい、できないところは職員と一緒にしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202114		
法人名	有限会社 アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム清水興津の家 2階 (1階、2階 合同)		
所在地	静岡県静岡市清水区八木間町1846		
自己評価作成日	平成26年7月31日	評価結果市町村受理日	平成26年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kai gokensaku.jp/22/index.php?action kouhvu detail 2013 022 kani=true&JigyosyoCd=2274202114-00&PrefCd=22&VersionCd=022>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成26年 9月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

興津川沿いにあり、周辺には山、畑もあり四季の変化による様々な景色が描き出される自然豊かな場所にあります。近くには遊歩道・公園もあり、自然に親しみながら散歩ができます。歌、フラダンス等のボランティアの訪問を積極的に受け入れており、利用者様に喜ばれています。職員が食材の買い出しに行き、その食材で栄養面を考慮し利用者さんの好み、偏りのないメニューの調理を作っています利用者さんには大変喜ばれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者さんのこれまでの生活過程を知り、無理のない支援をいています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩にでた際はかならず、あいさつをし一言でも良いので会話をするようにしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長、民生委員の方々に運営推進会議に出席して頂き、施設の日々の様子を伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハット。事故報告書を議題に取り入れ第三者側の意見を活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の運動会、防災訓練に参加しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日勤(9:00~18:00)職員の出勤より入口の扉は全開しています。又、夜間のみ出入口の施錠をしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月一度の職員会議の中に拘束、虐待防止等を議題とし取り入れています。		

静岡県(グループホーム清水興津の家 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在利用者さん1名成年後見制度を活用しています。今後も必要性があれば、活用できるよう支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、契約書・重要事項説明書について具体的にかわりやすく説明して利用者さんやご家族に不安や疑問を理解・納得してもらっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんやご家族より不満・苦情などの訴えがあつた場合は、館長、地域責任者の報告し、速やかに改善しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員とのコミュニケーションで、代表者は、職員のための訪問よろず相談員などからの情報で職員の声を反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の増員、年2回の意見交換会(無料)、職員の苦情相談、役職増やすなど各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内(更なるレベルアップ集中研修)もとより社外の研修の参加できる機会を設けてあります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との意見交換の場を設けるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者さんの今までの生活の様子を家族や役所の方から聞き、不安のない生活が送れるよう見守り、耳を傾けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方に施設を見学して頂き、施設での生活の様子を見て頂いたり、家族の要望を聞き不安のないように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者さんの入居までの経緯や既往歴や今までの生活などをもとにサービス対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	体調の変化や受診時の変化を連絡したり、面会時には日常の様子を伝えるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんと会話する時は、安心感を与えるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人より会いたいという訴えがあった場合は家族に連絡し会えるような流れを作ってもらっています。遠出の外出などの要望を支援する場合、家族の協力が必要になるため話し合いの機会を設けています。家族の方以外にも友人や疎遠になっていた方がこられることもあります。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室での時間を少なくするようレクリエーションの参加やフロアーでテレビ観戦、他の利用者さんとの会話に入れるよう支援しています。		

静岡県(グループホーム清水興津の家 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日常生活の様子や受診時の様子を家族に伝え、安心してもらえるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者が利用者さんの事を知ることで、その人らしい暮らしの希望や意向を把握するよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設の中だけで過ごすだけでなく希望にそって、散歩や外気浴などの支援をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	レクリエーションや利用者さんに合った役割をあたえ、家族での生活に近づけるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者さんの様子観察して気付いた事を皆で話し合い、意見交換をし介護計画を作成し、より良いケアを目指しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体調変化に関しては、特に小さな気づきや変化等を記録に残し、介護計画や対応に活かすようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営推進会議など広範囲の情報を活用し取り組んでいます。 病院受診も行っています。		

静岡県(グループホーム清水興津の家 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者さんが安全で充実した生活を送ることができるよう一人ひとりに合ったケアに努めています。又、歌のボランティアの方々にも協力して頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診により、日々の利用者さまの健康面での指示を仰いでいます。又、急変があった場合も、すぐに連絡をとれる様になっています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的なかカンファレンスを行うと共に日々の情報は職員全員で共有できる環境作りに努めています。又、相談事は受診時の伝え、聞いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者さんが入院した際は定期的な面会や電話での連絡をとり、利用者さんの状態を随時把握することで早期退院ができるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時だけでなく、日頃から面会の際などにも事業としての方針やご家族の考え方などを話し合い共有することで支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故が起こった際の緊急時の対応は職員全員ができるように定期的に訓練しています。又、事故報告書を作成することで再発防止に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、災害時の対応を全職員が身につけることができるよう取り組んでいます。又、地域の防災訓練に参加し、担当の方からのアドバイスを頂いています。		

静岡県(グループホーム清水興津の家 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格や今までの性格環境も一人ひとり違うので、それぞれの方の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんの希望やお話しに耳を傾け、本人の意思を尊重するよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを職員全員が把握し、本人のペースに合った一日を送れるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装を提案すると共に本人の意志を取り入れた身だしなみを心掛けています又、2ヶ月に一回の訪問美容を利用して頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の気候や季節に合った食事が提供できるよう、職員だけでなく、利用者さんの意見も取り入れながら調理しています。片付けなどは利用者さんのできる範囲で手伝って頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は一人ひとりの健康状態を考え、その方に合った量で提供しています。栄養バランスについては日々のメニューで偏りがないよう、検食簿でチェックしています。水分量はチェック欄を設け常に確認できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で口腔ケアできる利用者さんに対しては、声掛けし、見守りを行っています。それ以外の方については、一部介助し、清潔を維持できるよう支援しています。		

静岡県(グループホーム清水興津の家 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者さん一人ひとりの排泄の間隔、量を排尿・排便チェック表を作成していて、介助の必要な利用者さんには、職員がトイレでパットを取替えています。又、尿意ない利用者さんには、トイレに声掛け、誘導しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や利用者さんの状態に応じた個々の季節にあった水分、食事の摂取をおこなっています。又、排便チェック表を活かし職員で話し合いますが、重度のケースは医師と相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴をしています、体調のすぐれない利用者さんは、清拭を行っています、拒否される利用者さんには、無理折り返しません。又、夏にはシャワー浴もしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、夜間において、居室内の室温調節換気を行い、布団や衣類のとりかえをし安心して、気持ち良く眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様が服用している薬については、薬管理表を記載することにより職員全員理解して利用者様に服用して頂いてもらっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の好きな利用者さんには、できる範囲の家事(洗濯たたみ、食器拭きなど)して頂き、張り合いのある日々を過ごせるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気や気温を考慮し、自立歩行のできる利用者さんは散歩、歩行困難な利用者さんは外気浴をして、外の世界を肌感じて頂くことできるよう支援しています。本人より外出希望の訴えあった時は、ご家族と相談しご家族と出掛けて行ってもらっています。		

静岡県(グループホーム清水興津の家 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のお金は施設で管理しています。利用者さんの要望があれば、職員と一緒に買い物にいらしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さんより電話の訴えがあれば、ご家族に連絡し、電話に換わってもらい、ご家族と話して花を咲かせてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月利用者さんと職員とで掲示物を作成してフロア内の季節を感じる空間作りに努めています。又、利用者さんによる習字、貼り絵、塗り絵の掲示物を飾るなどして心地よい共用空間づくりを行っています。それから共用ペースにはカーテンやよしずで温度管理などに配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者さん一人ひとりの性格や気の合う人間関係に配慮し、フロア内では、思いおもいに過ごせるようになっています。居室については個別になっており、独りになりえる空間作りやプライバシー保護をできるようになっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるかぎり、自宅にいた時と同じように生活できるように本人、ご家族との相談より使い慣れた生活用品をつかって頂いています。居室は快適に過ごせるよう、毎日清掃を行っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食器拭き、洗濯たたみ等の家事へ参加やラジオ体操、食事前の嚥下体操等の機能を維持することやメリハリをつけた生活を送るためにも、自分のできる事はできるだけ自分で行って頂いています。		